

vol.66 アイアム

LOGO DESIGN by Aimi Kawagoe



男女共同参画推進地域事業

- 「女性の地域活動参画についてのアンケート」調査結果
- 男女共同参画推進員として活動する中で思うこと
- 男女共同参画推進地域事業中間報告会を開催しました!

男女共同参画センター 開催講座・イベントレポート

家事・育児をシェアして家族みんなでHappyに♡



女性の地域活動参画についてのアンケート調査結果

福井市男女共同参画推進員は、市から委嘱され、男女共同参画社会の実現に向けた啓発活動を行っています。

令和7・8年度の活動テーマは

「地域活動における女性の参画推進～無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に気づこう～」。

地域活動に女性の参画を進めるにはどうしたらよいか、地域の実情を把握するため、

今年度はアンケート調査を実施しました。

調査にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



女性の地域活動参画についてのアンケート

調査対象 10代以上の福井市民

調査時期 令和7年10～11月

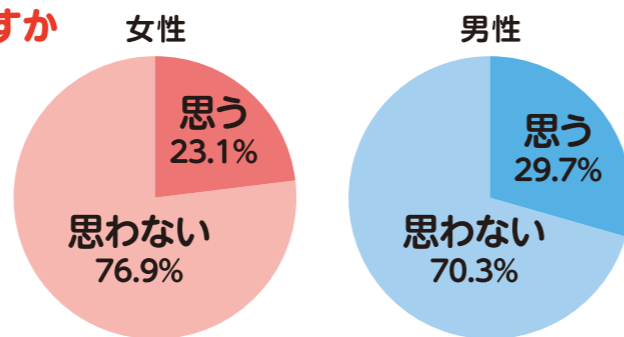
調査方法 福井市男女共同参画推進員によるアンケート調査票の配布

回答数 488人(オンラインによる回答)

主な調査結果

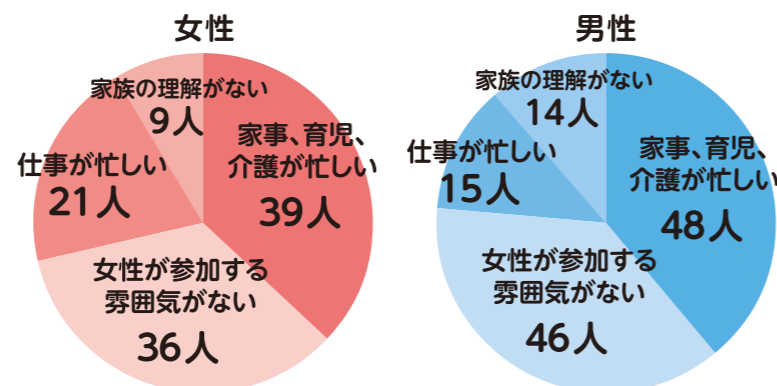
Q. 女性は、地域活動に参加しづらいと思いますか

「参加しづらいと思わない」を選んだ割合が大半を占めるという結果になりました。男女で比較すると、女性のほうが「参加しづらいと思わない」と考えている人の割合が多いということも分かりました。



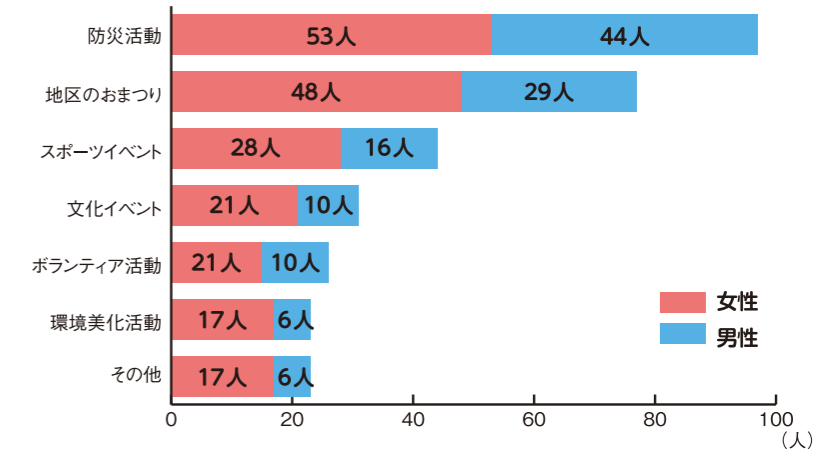
Q. 女性が地域活動に参加しづらい理由として、どのようなことが考えられますか

「家事、育児、介護が忙しい」、「女性が参加する雰囲気がない」を選んだ人が同じくらい多いという結果になりました。アンケートの自由記述の中で、「良くも悪くも、地域には古い慣習とか、しきたりがある」という意見がありましたが、この意見が「女性が参加する雰囲気がない」が多くなった原因の1つではないかと考えられます。



Q. 『女性の立場からの意見』が「取り入れられにくい」、「取り入れられていない」のはどのような場面だと思いますか

男女ともに、令和5・6年度の活動テーマだった「防災活動」が一番多く選ばれ、次いで、「地区のおまつり」、「スポーツイベント」が多く選ばれました。「防災訓練への参加呼びかけ」は、推進員の活動として毎年行っており、今後も続けていく必要がある重要な活動だと改めて認識しました。



Q. 『女性の立場からの意見』が「取り入れられにくい」、「取り入れられていない」理由として、どのようなことが考えられますか

「会議では女性の数が少ないため、男性に囲まれた中で積極的に発言する女性は少なそう。会議の進行役が女性の発言を促す必要がある。」という意見や、「女性だからという理由で役員に選出されたが、会議に出席する暇がない。」という意見をいただきました。地域活動は、本来無理のない形で参加できることが望ましいので、性別に偏らない役割分担や、女性が参加しやすい体制づくりが重要だと考えさせられました。

Q. 男女共同参画について、日ごろ感じていることやあなたの住んでいる地域ならではの慣習や風習などがあれば教えてください

男性の意見

- ・女性がもっと前に出てきてほしい
- ・女性が参加しやすいような環境づくりが必要

女性の意見

- ・若い世代においては男女共同参画が当たり前になりつつあるが、中高年や高齢者はまだまだ男尊女卑が残っている
- ・子育て世代は仕事、家事、子育てが忙しく、地域活動に参加する余裕がない

アンケートまとめ

アンケートの項目ごとに見ていくと、「数字上は女性の参画が進んでいる」という部分が多く見て取れましたが、一方で、「参加しづらいから参加していない」、「参加はしているが参加しづらい」という思いを持っている人が一定数いることも分かりました。また、アンコンシャス・バイアスの認知度については、4人中3人が意味を知らないという結果でした。女性が地域活動に参加しづらい理由を「家事、育児、介護が忙しい」、「女性が参加する雰囲気がない」と回答した人が多いところを見ると、アンコンシャス・バイアスによる変えがたい雰囲気、慣習、風習といったものは根強く残っています。来年度は、今回のアンケート調査結果を踏まえながら、アンコンシャス・バイアスに気づいてもらうための方策を考えていきます。

男女共同参画推進員として活動する 中で思うこと



男女共同参画は進んでいる・・・でも現実とは?

リーダー推進員 Aさん



アンケートの結果を見て、女性の地域活動への参画が、十分とは言えないまでも、進んできていると思いました。しかし、他の場面ではどうでしょう。例えば職場では? これはほんの一例ですが、育休や時短勤務等で誰かが休めば、その人の仕事を他の人がしなければならず、それによって仕事量が増えてしまうのはあまりうれしくないという声を、最近耳にしました。また、休んだ人も、迷惑をかけて「心苦しい」と感じたり、自分のキャリアが保障されるのか不安に思ったりするでしょう。職場の誰もが権利を保障されていると感じ、当たり前フォローし合えるようになるというと思いますが、目指す社会と現実とのギャップを感じます。このようなことが、職場に限らず、私たちのまわりの様々な場面において、まだまだたくさんあるのではないのでしょうか。性別にかかわらず、様々な立場の人々が、現実気づき、思いを出し合い、目指す社会と現実とのギャップを一つ一つ埋める努力をすること、これが男女共同参画の推進になると感じています。

推進員の活動に携わって

リーダー推進員 Yさん



男女共同参画って何だろう?調べてみると、

- ・男女共同参画とは、性別に関係なく誰もが平等に社会に参加し、能力を発揮できる社会を目指す考え方。
- ・男性も女性も性別による役割や機会の差にとらわれず、教育、就労、家庭、地域、行政などあらゆる社会活動に平等に参加できる社会をつくる考え方。
- ・意思決定や責任の共有、能力の最大限の発揮を重視する。具体的には、職場での昇進や重要な仕事の評価、学校での進路選択の自由、家庭での家事・育児の分担、地域や行政での意思決定への参加などが含まれる。

とあります。

活動を進めていく中で、私たちの身近なところでも、男女共同参画の目的が浸透していないこと、取り組みが進んでいないという現状が浮き彫りになりました。その要因として、男女や世代別で男女共同参画に対する様々な考え方や捉え方があること、それぞれの家庭や団体、地域に個別の慣習や慣例があることなどが分かりました。さらに、これらの要因の根本には、アンコンシャス・バイアスが存在することが分かってきました。それぞれの人が、自身のアンコンシャス・バイアスに気付くことが大切であるということも分かってきました。この先、私たち一人ひとりが、それぞれのアンコンシャス・バイアスに気付き意識を変えていくこと、お互いに相手の立場や考えを理解して協力し合うこと、そして、これらの行動を積み重ねていくことが、男女共同参画の目的の浸透と取り組みを進めていくことに繋がっていくのではないのでしょうか。

少しでも前に

リーダー推進員 Kさん



1年間リーダー推進員を務めさせていただき、研修会やアンケートを実施する中で何かしらジレンマのようなものを感じました。

それは、男女共同参画という社会的要請と、長い歴史の中で根付いてきた男性と女性に関する社会的風潮が混在する今の時代で、両者をどう整理していけばよいのかというモヤモヤした感覚です。

しかしながら、せっかく各地区の皆さんと一緒にこんなに真剣に取り組んできたのだから、一朝一夕ではいけないとしても、わずかでも前に進めなければいけないとも強く感じています。幸い多くの方たちが両者の問題に気付き、課題意識を共有していることは大きな支えであり、前に進む原動力になると感じています。

令和8年度も引き続き皆さんと一緒に考え、少しでも早く旧態依然とした古い慣習を今の時代に合った考え方にアップデートしていけるよう努力していきたいと思っています。

男女共同参画推進員になって考えること

リーダー推進員 Uさん



73年余りの自分の人生を振り返り、整理することから始めました。

昭和27年の戦後生まれで、男女共学の義務教育を修了し、進路を決める時に両親に言われたのは、「女が大学へ行って何になる?女は手に職を持つ方が将来役に立つよ」でした。それで、商業系の高校に進学し、専門技能を身につけ、就職しました。その職場は、居心地は悪くありませんでしたが、今思うと「男女不平等なことがたくさんあったんだなあ」と思い当たることが多数ありました。

昭和60年5月に男女雇用機会均等法が、さらに30年後の平成27年に女性活躍推進法が成立してからは、今まで男社会であった林業、製材業、建築業等にも女性の進出が目立つようになり、時代の変化に驚くと同時に「大変だろうなあ、大丈夫かな」と心配になったものです。また、これまで女性中心であった保育、看護等にも男性の進出が目立つようになりました。

今日では、総理大臣をはじめ各大臣ポストにも女性が選ばれるなど、政治面においても女性の活躍は当たり前になってきました。しかし、まだまだ女性の足を引っ張ったり、軽んじられることがあったりすることも事実です。

今のこどもたちが、社会に出る時には、更に女性活躍の場が増えていると思います。

その頃には、男女同権、男女平等の理念がさらに深まり、あえて男女を口にしないで、ヒトとして活躍、協働するのが当たり前の世の中になっているのではないのでしょうか。そうなるよう、これまで以上に、行政による推進や学校教育がなされることを期待しています。

生命は絶えず、多様で、どれも良いとも限らない

リーダー推進員 Yさん



最近、海外の言語や文化についてSNSで調べていたら、日本はハイコンテクスト文化だと言われていることを知りました。ハイコンテクスト(High-context)文化とは、わかりやすく言えば「空気を読む」というコミュニケーションです。以心伝心や阿吽の呼吸など、会話を受ける側が、文脈の中から相手(話し手)の意図を読み取ることを良いこととしているそうです。主語を省いた文脈でも日本では相手に伝わります。伝わらなければ聞き手側に問題があると考えるのが日本人の特徴のようです。『何でわからないんだ?』『察してくれよ』などが良い例なのではないでしょうか。ここにもアンコンシャス・バイアスが隠れているのではないかと思います。そう考えると、自分の意見を伝えることは大事なのだと思います。しかし、ここに前提があるのだと思います。それは相手のことを尊重すること。『尊厳』ですね。実は、日本人を調べていくと、日本人とは『普通』『迷惑をかけない』『当たり前』を好む傾向があります。例えば、家族よりも仕事を優先することや自分の気持ちよりもその他大勢の人の考えを優先したりします。これは悪いことでもないのだと思いますが、そういう傾向があるということだと思っています。

さて、男女共同参画に戻ると、我々が大事にすることは何なのでしょう。「女性だから〇〇するのが当たり前」、「我慢しなければいけない」、「普通は〇〇」といった文化の中に根付く価値観に気が付くことなのかもしれません。なぜなら、現実社会ではどうしても上手いかないこともあります。でも、聖徳太子も言っています。『和を以て貴しとなす』。みんながお互いのことを尊重して話し合うことから生まれるものが尊いのではないのでしょうか。そして、それこそが多様性でもあり、男女共同参画の目指す『一人ひとりが性別ではなく生き方を決められる社会づくり』ではないのかなと思います。このように、推進員をすることで自分の考えが変わることも貴重な経験だと感じる次第です。

「当たり前」を問い直す、ジェンダー平等とアンコンシャス・バイアス

リーダー推進員 Mさん



「ジェンダー平等」という言葉に向き合う中で、私自身が何度も立ち止まり、自問自答したことがあります。それは、私たちが日々の暮らしの中で無意識に受け入れている「当たり前」の正体についてです。「男性だから」、「女性だから」という、実体のない型に自分や他人を当てはめようとしてしまう瞬間。それは悪意から生まれるものではなく、育ってきた環境や経験の中で、知らず知らずのうちに身につけてしまった「アンコンシャス・バイアス」によるものかもしれません。

男女共同参画推進地域事業 中間報告会を開催しました!



中間報告会では、リーダー
推進員がアンケートの分
析結果について地区推
進員へ説明しました。



「職業生活での女性の活
躍について」や「男性の
家事育児参加」などを
テーマにワークショッ
プを行い、意見を出し
ていただきました。

ワークショップで出された意見

- ・夫婦で納得しているなら専業主婦でもいい
- ・女性が役員になるのも向き不向きはあるが、「絶対に女性がならないといけない」みたいに言われるのはつらい
- ・女性が管理職を目指すかどうかは個人の自由
- ・田舎には“女性は土俵に上がれない”に象徴されるような古いしきたりが残っている
- ・今の20代30代の男性は、家事や育児を当たり前のようにやっている

2025年度

男女共同参画センター 開催講座・イベントレポート

男女共同参画センターは、男女共同参画に関する市民の活動拠点として、女性のキャリアアップや再就職支援、男性の家事・育児への参画促進など、さまざまな講座の開催や情報提供などを行っています。今回は2025年度に実施した講座の一部をご紹介します。今後も男女共同参画社会の実現に向けた楽しい講座、ためになる講座を多数開催していきますので、ぜひご参加ください!



開催日 2025.6.28

男女共同参画講演会

ひとつとではない金融トラブル問題 ～多様性の今、賢く生きよう～

講師
弁護士/元裁判官
武蔵野大学客員教授
八代 英輝氏

男女共同参画への理解と関心を深めるため、元裁判官で弁護士、武蔵野大学客員教授として活躍の八代英輝氏による講演会を開催しました。講演では、あらゆる物事が多様化する現代社会を弁護士として経験してきたお話や、受講者からの質問への回答を、楽しく分かりやすくお伝えいただきました。多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。



- 分かりやすい説明で自分の知識が増えた。
- 身近な問題を具体的に知る機会になってよかった。
- 現在起こっている問題についての話だったので良かったです。

キャリアアップ支援講座

開催日 2026.2.10

伝え方で変わる! アサーティブ講座

講師
アサーティブジャパン認定講師
大橋 春美氏

「自尊心のアサーティブな伝え方」の基本を学んだうえで、自身のコミュニケーション上の課題を整理しました。演習を通して実際の伝え方を体験したことで、課題解決のヒントをつかむことができました。また、ペアワークを交えた実践の時間もあり、参加者の皆さんは楽しみながらアサーティブコミュニケーションを学んでいました。



- ペアワークが盛り上がりました。
- 隣の席の方とグループワークができたのが特に良かった。相手を尊重しながら自分の主張も冷静にできるように、アサーティブを取り入れたい。

